

# 矢作川流域圏懇談会通信

R3 山部会編 vol. 4



発行日：令和4年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第13回山部会まとめの会を開催しました！

1月21日(金)に第13回山部会まとめの会が新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で岡崎市にて開催されました。今回のまとめの会は、岡崎市と岡崎森林組合より森林施策、森林事業に関する話題提供、4つのテーマに関する活動の進捗と次年度の目標について話し合いました。

日時：令和4年1月21日(金) 13:30~17:10  
場所：岡崎市額田センター こもれびかん 集合室A・B  
参加者：25名(内オンライン参加6名) ※事務局を含む



## ◆主な会議内容

### 1. 話題提供



岡崎市森林課、岡崎森林組合より話題提供していただきました。主な内容を以下に記します。

#### ■岡崎市の森林環境譲与税を使った森林施策について(岡崎市森林課)

- 岡崎市では、令和2年度の森林環境譲与税を活用し、森林の整備に関する施策と森林の整備の促進に関する施策に取り組んだ。
- 森林整備に関する施策として、森林管理権集積計画を37.64ha策定し、市が所有者から委託された森林を管理し、うち、林業として採算が合う22.57haにおいて経営管理実施権配分計画を策定し、森林の経営管理を民間事業体に再委託し、残りを市が整備を行う。
- 森林の整備の促進に関する施策では、森林の整備を担うべき人材の育成および確保のため、市主催事業として人工林間伐養成講座(基礎編・実践編)、森の女子会および人工林間伐フォローアップ講座の4講座を開催した。

#### ■岡崎森林組合の補助金(農林中金)を使った森林事業の報告(岡崎森林組合)

- 施策が困難であると放置していた森林に対して、ICT技術を導入して森林情報および地形情報を取得し、森林管理を行うと共に、急傾斜地での危険性を考慮した作業道の開設と森林整備の遅れている地域の施策に取り組んでいる。
- 木望(きぼう)の森整備事業では、学識経験者、県・市の林政担当者、県内の林業関係者による整備検討委員会を設置し、事業実施に伴う問題点、技術的内容等について検討している。
- 木望の森整備事業では、ICTによる森林調査に基づく作業道開設に併せて、新設作業道の代用としてタワーヤードを使った架線集材により木材の搬出施策を試行した。また、丸太検知アプリを導入し、搬出した木材の計測を試行した。

### 2. 4つのテーマの活動進捗報告・今年度のふりかえり・次年度の活動目標および計画



#### (1)木づかいガイドライン

- 根羽村でコウヨウザンの植栽を行った。単木防護柵を設置していたが、シカの食害によりほぼ全滅状態となった。
- 山梨県の南都留森林組合との連携が進んでいる。技術交流や道志村での活動を進めている。
- 「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の製作と普及を進めている。
- 「木を育てる」「木で作る」「木とくらす」をテーマとしたパンフレット「森の民のこどもたち」を製作した。また、「森の幼稚園」活動について、伊那市高遠第二・第三保育園を視察した。
- 改正公共施設建築物等木材利用促進法について、名古屋市内の学童施設を視察した。

#### (2)流域圏担い手づくり事例集

- 10年誌を作成していく過程で、流域の課題を解決するためには都市住民を巻き込むことが必要という認識が共有された。今回の事例集では、まちを巻き込んだプロジェクトに関わる人・団体に取材していくこととした。
- 流域圏担い手づくり事例集は、「学童保育木質化プロジェクト」をテーマに構成する。学童保育の取材対象は、あおぞら学童保育クラブ、松栄第一第二学童保育クラブ、山里学童保育クラブを予定する。プロジェクト関係者の取材は、鈴木建一氏、東海林修氏、唐澤晋平氏、小原淳氏、白井仁土氏、安井建氏を予定する。
- 12月に、「森と子ども 未来会議」の鈴木建一氏に話しを伺った。その後、名古屋市内の3つの学童保育を訪問し、話しを伺った。また、学童保育の設計を行った東海林修氏、「季の野の台所」の森川美保氏らの取材を行った。

#### (3)山村ミーティング・森づくりガイドライン

- 1月17日に豊田市御内市有林事務所にて「第2回矢作川水源の山づくりガイドブック策定会議」を行った。今回のテーマは人材育成ということで、各組合から参加していただいた。
- 豊田森林組合の中で、有志が自主的に取り組んでいる「現業職ミーティング」が昨年夏から実施されている。現業職の現場を知る目線から、事故を起こさず、人材を育成する方策等について検討されている。
- 6月4日に串原にて森の健康診断を実施する。山の所有者を特定し、診断結果を還元していく。

#### (4)今年度のふりかえり・次年度の活動目標および計画

- 部会連携調整(通称：ミライ会議)を今年度発足した。今回、5回開催しており、来年度も続けていく。
- 次年度の活動目標については、今回の協議も含め1月末までに仕上げていく。

## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●話題提供：岡崎市森林課・岡崎森林組合

- ・岡崎市には、水守森支援隊(みまもりしえんたい)があり、林業に関するスキルアップに取り組んでいる。(板坂)
- ・「森とともに生きる」は、これからの地域の森づくりと森林組合の姿の展望のための基礎資料としていく。(眞木)
- ・急傾斜地での搬出間伐が課題。架線集材を取り入れることにより、施業地の幅が広がると思う。道を造ると山を傷めることから、架線を使った山を傷めない施業も検討していく。(池田)
- ・愛知県では、ドローンを使った計測は測量等の代わりとして認可されているのか。(今村)
  - ▶造林事業の検査要綱ではよいということになっているが、実際は運用されていないと思う。間伐など上からでは計測が難しいと思う。(池田)
- ・タワーヤードで架線集材を行うための人材育成の計画はどうか。(今村)
  - ▶緑の雇用を活用して、毎年何名か研修に行かせている。教える側の研修も行かせている。(池田)
  - ▶愛知県もメニューを用意している。県内全体の林業者の技術力アップを検討していく。(生田)
- ・明日のFWは、急傾斜地から木を出すことの大変さがわかる所と思う。そういう観点で視察してほしい。(藏治)

### ●木づかいガイドライン

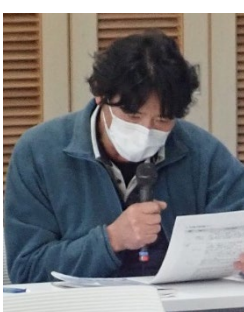
- ・矢作川流域でのいろんな木づかい活動を見える化し、それを「木づかいガイドライン」としたいと思っている。(今村)
- ・森や海辺に木のアイテムがあると、その地域の魅力が高まる。次世代参加による木のアイテムづくりは、地域の魅力を想像している気づきを与える。この意義はとても大きいと思う。(今村)

### ●流域圏担い手づくり事例集

- ・学童保育の木質化により、地域からも喜ばれる建設物になっていると感じた。山主さんたちが名古屋にできた学童保育で子ども達が喜んでいるのを見て、大変うれしかったと言われていたとのこと。(洲崎)
- ・いろんな方が、それぞれの思いをもって学童保育の木質化に関わっている。(洲崎)
- ・本日の白井仁士氏への取材では、空間づくりとして木を使うだけではなく、それを森づくりにつなげていくには課題も多いという話があった。(近藤)

### ●山村ミーティング・森づくりガイドライン

- ・どの森林組合も人材育成が喫緊の課題と思う。これからの人材育成を担う中堅の人たちと一緒にあって、一個一個学んでいく。安全管理も含め、きちんと教えられるようにしていくところから始めていくことが重要。(丹羽)
- ・現業職のメンバーが自主的に動こうとしている。自主性を損なわずに、自治的に動けるような仕組みをつくる。(丹羽)
- ・科学的根拠を持ちながら次世代に伝えていくこと。現場からの声が科学的根拠と合意をもって進められるとすれば、大きく変わっていくと思った。(丹羽)
  - ▶誰でも同じように安全に作業できるように、一つ一つ自分たちでやっていこうということはすばらしいと思う。こうした安全な山仕事を共有していこうという取り組みに感銘した。(洲崎)
  - ▶素晴らしい取り組みに心を打たれた。技能職員にこの資料を渡している。(今村)
  - ▶作業標準書を作ることは重要と思う。また、同じ業種の方から安全について教育されることは需要と思う。(高橋)
  - ▶重要なのは、現場の人たちが、事故がないようどうするかを話し合うこと。ようやく本物の標準化を現場からやりはじめた。林業労働の夜明けかと感じている。(山本)
- ・森林ボランティアが自力間伐を推進するような進め方を考えなければいけないと思う。(清水)
  - ▶とよた森林学校卒業生が、グループを組んで森林ボランティアの団体を作っている。その中で研修もしている。(山本)



### 今後のスケジュール(予定)

■第11回全体会議 日時：令和4年2月21日(月) 13:30~16:00 Web(オンライン)会議



### ◆お問合せ◆

矢作川流域懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

\*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課(cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp)までお送りください。



# 矢作川流域圏懇談会通信

R3 フィールドワーク vol.4



発行日：令和4年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆岡崎市河原町地先の森林整備箇所を視察しました！

岡崎森林組合による「ぬかた木望(きぼう)の森」の森林整備箇所を視察しました。その他、耕作放棄地での漆植栽地、愛知県指定文化財になっている万足平の猪垣を視察しました。

日時：令和4年1月22日(土) 9:30~12:00

場所：岡崎市河原町地先 ①森林整備箇所 ②漆の植栽地 ③万足平の猪垣

案内：岡崎森林組合

参加者：14名(事務局を含む)



## ◆フィールドワークの記録

### ① 森林整備箇所 ～ぬかた木望の森～

岡崎市河原町地先の農林中金の森林再生基金(農中森力(もりちから)基金)を活用した森林整備箇所「ぬかた木望の森」を視察しました。この事業では、UAV 写真撮影やGNSS 測量等を活用した森林調査、丸太検知アプリを用いた材積の算定など、新しい技術の導入を行っています。森林整備では、新設作業道の代用として架線集材による木材の搬出作業を実施し、施業地の選択枝の幅を広げようとしています。(案内：岡崎森林組合 池田氏)



### ② 漆の植栽地



三河地方はかつて良質な漆の栽培地でした。文化財への利用や新産業の振興を視野に、三河漆の山地復活および岡崎漆のブランド化を目指し、2021年に「岡崎漆プロジェクト」を発足して、耕作放棄地を利用した漆栽培を開始しました。このプロジェクトは市、農協、森林組合、合同会社、名大、基礎生物学研究所などの産官学連携で推進しています。植栽地はシカの食害対策として、周囲を耐久性に優れた「亀甲網」で囲っています。(案内：額田林業クラブ 平木氏)

### ③ 万足平の猪垣

愛知県指定文化財「万足平の猪垣」を視察しました。猪垣は猪、鹿の被害を防ぐため、耕作地や山の裾野を囲む石垣です。額田地区(主に宮崎町)の猪垣の総延長は約50kmにもおよび、全国的にみても有数の規模です。この地域で採取される硬く平らで板状に割れやすい領家片麻岩を多く利用しています。万足平の猪垣は19世紀前半に築かれたもので、高さ約2m、底幅約1m、上幅0.6m、長さは612mです。

(案内：岡崎森林組合 眞木氏)



## ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

\*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所 調査課(cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp)までお送りください。

